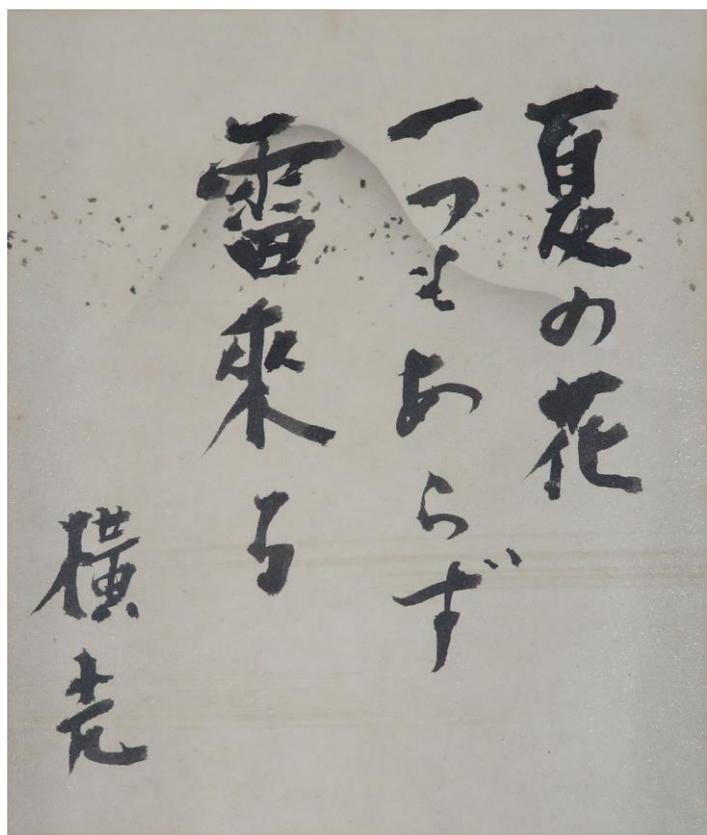


第26回 大分県民芸術文化祭参加行事

# 第26回 横光利一俳句大会

## ～入賞作品集～



「夏の花一つもあらず雷來る／横光」（宇佐市所蔵・三和文庫）

表彰式：令和6年12月7日（土）14:00～15:30

宇佐市民図書館 視聴覚ホール

主催／宇佐市・宇佐市教育委員会・豊の国宇佐市塾  
後援／大分県・大分県民芸術文化祭実行委員会・NHK 大分放送局  
OBS 大分放送・TOS テレビ大分・OAB 大分朝日放送

## ごあいさつ

横光利一生誕100年を記念してスタートした「横光利一俳句大会」も今回で26回目を迎えることができました。

さて、今年の応募総数は5200句で、一般の部が1571句、中学生以下の部が3629句でした。応募人数は1932人で、一般応募が361人、中学生以下が1571人でした。

団体応募は県内外の小・中・高等学校計41校から3988句に及ぶ作品をいただきました。

全国各地から応募してくださるみなさん、学校単位やクラス単位で取り組んでくださる児童・生徒のみなさん、指導してくださる先生方のご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

入賞句の選考につきましては、例年同様、写真家の浅井慎平先生と俳人の野中亮介先生をお願いいたしました。両先生におかれましては、お忙しい中、毎年たくさんのお応募作の選考をしてくださり、誠にありがとうございます。

終わりに、入賞されたみなさまのご多幸と、さらなるご活躍を祈念いたしますとともに、引き続き、本大会へのご支援をお願い申し上げます、あいさついたします。

令和6年12月7日

宇佐市長 是永 修治

## 第二十六回

### 「横光利一俳句大会」表彰式

## 式次第

- 一、開会
  - 一、主催者あいさつ
  - 一、表彰状授与（特選・秀作）
  - 一、受賞のことば（入賞者代表）
  - 一、講評 野中亮介氏（選者）
  - 一、閉会
- ※閉会后、記念写真撮影

#### ■選者■

**浅井慎平氏** 昭和 12 年、愛知県生まれ。写真家・俳人。句集に『二十世紀最終汽笛』、『あれから何処へ』などがある。平成 27 年、西東三鬼賞（最優秀）受賞。

**野中亮介氏** 昭和 33 年、福岡県生まれ。俳人。俳人協会理事。俳誌『花鶏』（あと）主宰。令和 3 年、句集『つむぎうた』で第 60 回俳人協会賞受賞。

## 横 光 利 一 *Riichi Yokomitsu* (1898~1947)

宇佐出身の父・横光梅次郎と伊賀（現・三重県伊賀市）出身の母・こぎくとのあいだに、父の仕事先であった福島県で生まれた（利一の本籍は生涯宇佐にあった）。

菊池寛に認められ、川端康成を紹介されて親友となる。新感覚派文学のリーダーとして、昭和初期からめざましい活躍をし、昭和十年代には「文学の神様」と称された。

代表作に「日輪」、「上海」、「機械」などがある。また、半生をかけて書き続けた未完の大作「旅愁」の後半に主人公が故郷の九州を訪ねる場面があり、そこには宇佐の自然や人々とのふれあいが描かれている。

友人・知人に俳人が多く、自らも熱心に句作をし、小説の中にも盛り込んだ。また、句会「十日会」を主宰し、俳人の水原秋桜子や石田波郷らが参加したほか、門人の石塚友二や清水基吉は、小説家のかたわら俳人としても活躍した。

1998年に生誕百年を迎え、伊賀市（三重）、世田谷区（東京）、宇佐市、鶴岡市（山形）など、全国のゆかりの地であいついで記念事業が行われ、以来、各地の交流が続けられている。「横光利一俳句大会」も、宇佐市の生誕百年記念事業の一環として始められ、生誕120年目にあたる2018年の表彰式は、「国民文化祭おおいた2018」の分野別事業として、規模を拡大して実施。昨年度、25回目の節目を迎えた。

第二十六回 横光利一俳句大会 入賞作品

【一般の部・特選】 十句

横光利一俳句賞

暗くなる前より点す夜店の灯

安倍日出 宇佐市

大分県知事賞

青田より青田の中の父を呼ぶ

高野ちか子 大分市

宇佐市長賞

胸のボタンひとつはづせば夏が来る

天田泉美 宇佐市

宇佐市議会議長賞

夏蜜柑雨を明るく過ごしけり

井手久美子 北九州市

宇佐市教育長賞

サイレンの空の重たき終戦日

押谷 隆 別府市

大分県北部振興局長賞

終戦日スコアボードに並ぶ0

金澤諒和 大分市

宇佐市民図書館協議会長賞

レモンテーパー歪みガラスの街極暑

勝浦龍三 大分市

豊の国宇佐市塾賞

花の雲旅に一人と一行と

阿部正調 大分市

浅井慎平選者賞

夏惜しむボブ・マリーの柄のシャツ

藤本かおり 京都府

野中亮介選者賞

母代はりに結ぶ手と手や秋祭

天野真由美 福岡市

【中学生以下の部・特選】

十句

横光利一俳句賞

太陽でかがやいている学校のプール

井上木乃香このか

長峰小学校五年

大分県知事賞

原爆が落ちた日より暑い日なし

鈴木虎太郎

安心院中学校二年

宇佐市長賞

原ばく忌ハンカチにつく汗のあと

富田七海

大在小学校六年（大分市）

宇佐市議会議長賞

終戦日家族みんなの声がする

渡辺愛菜まな

大在小学校六年（大分市）

宇佐市教育長賞

金平糖空に浮かべて天の川

亀井佑奈ゆな

駅川中学校三年

大分県北部振興局長賞

かげぼうしおどりのわの外さみしそう

上原向日葵ひまり

長峰小学校四年

宇佐市民図書館協議会長賞

夏祭りあの子も見てるこの花火

広瀬遥翔はると

北部中学校三年

豊の国宇佐市塾賞

入道雲何色の蜜かけようか

清末華乃子

長洲中学校二年

浅井愼平選者賞

風鈴をつけたら風が見えてきた

吉満 晃こう

祖峰小学校三年

野中亮介選者賞

ゆきだるま何度作っても消えていく

井上蒼音そらと

朝日中学校三年（別府市）

【一般の部・秀作】四十八句

|                 |       |         |                      |       |      |
|-----------------|-------|---------|----------------------|-------|------|
| 晩夏光貨物列車の長きこと    | 上尾ヤス子 | 大分市     | 山頭火放浪の地の秋茗荷          | 沖石讚岐  | 川崎市  |
| 月光やいつもの街の別の貌    | 石井明美  | 津久見市    | 水琴窟飽かず聴きゐる日永かな       | 貝田ひでを | 大阪市  |
| ストーブの薬缶ことこと理髪店  | 糸永悦子  | 別府市     | ミサイルの飛んで来ぬ空星光る       | 勝浦弘子  | 大分市  |
| 恐い物見たさ増さりて青大将   | 井上寿子  | 直方市     | 朝顔や牛乳瓶のかつしやかしや       | 金富真帆呂 | 大分市  |
| 下校後は代掻き鋤に乗る役目   | 岩城恵美子 | 八代市     | 語れないあれこれ納め未草         | 貴田雄介  | 熊本市  |
| 膝ついて滴り受くる使徒のごと  | 岩波千代美 | 大分市     | 盆踊の櫓上がれば母のこと         | 楠本シヲリ | 西海市  |
| 膝つけば祈るかたちや胡麻叩く  | 植田桂子  | 高松市     | かりがねや添ひ寝の赤子引き寄する桑野英子 | 福岡市   | 福岡市  |
| 麦笛や母の通ひし小学校     | 延寿寺富美 | 北九州市    | 鬼胡桃鬼の礫の求菩提山          | 香野文男  | 北九州市 |
| 大釜に牛の餌を炊く十三夜    | 大北広海  | 東大阪市    | 若き日は道場通ひ西瓜割る         | 古賀一崇  | 大津市  |
| 糠袋干されてをりぬ終戦日    | 岡汀子   | 三木町(香川) | 梅雨の闇秘仏の燭のまたたけり       | 小坂優美子 | 射水市  |
| 秋時雨わすれたきものみなぬれて | 岡野百々  | 大分市     | 貝紅を彩る蒔絵松の内           | 小室けい子 | 村山市  |

|                 |       |         |                       |       |         |
|-----------------|-------|---------|-----------------------|-------|---------|
| ぼきぼきと首に骨鳴る残暑かな  | 是澤勝行  | 津久見市    | 教室の金魚係はとり合ひに          | 平田はつみ | 杵築市     |
| 春泥の靴そのままに号泣す    | 税田百余  | 大牟田市    | かなかなを浴びたましひの透く如し藤崎由希子 | 宗像市   |         |
| 蜻蛉や石に影おく石の貌     | 佐藤佳津  | 津久見市    | かりがねや湖西に下る手漕ぎ船        | 藤原弘美  | 北九州市    |
| 鉄棒の苦手な兄や敗戦忌     | 佐藤奈都子 | 高松市     | いれかはる紙幣の顔や麦の秋         | 淵野陽鳥  | 大分市     |
| 稲刈りしちくちく風呂に鎮めけり | 重岡とみ子 | 芦屋町(福岡) | たがひの嘘たがひに知りて葛の花       | 松岡由美  | 添田町(福岡) |
| ロザリオの炒られる如き酷暑来る | 高柳和弘  | 大分市     | 熱風や地獄の門の開く音           | 光安弘子  | 粕屋町(福岡) |
| カクテルは海の色なり遠花火   | 利國春美  | 高松市     | サングラス心臆する日なりけり        | 緑川啓子  | 宇都宮市    |
| みずぐ忌や祖母の好みし木綿縞  | 富尾和恵  | 大分市     | 出不精と言はれて春宵を不在         | 睦ほたるこ | 大分市     |
| 八月の虚空を見遣る軍馬像    | 友成聖子  | 北九州市    | そよ風のやうな嘘なり女郎花         | 村越 縁  | 広島市     |
| 攻め焚きの火柱立つや冬銀河   | 鳴海ふく江 | 武豊町(愛知) | 箱庭に波音もなき白き砂           | 矢幡秀子  | 筑紫野市    |
| 夜を籠めて出撃なれや秋螢    | 西村敏彦  | 久留米市    | 枝折戸の開きしままや銀河濃し        | 吉原多佳子 | 岡山市     |
| 書き直す言葉選ぶや遠花火    | 花田睦生  | 北九州市    | 病院の児の泣き声も大暑かな         | 吉本栄子  | 津久見市    |
| 一步出て溜息深き炎天下     | 久田浩一郎 | 長崎市     | 萋苜包む半透明の淡き青           | 米満幹子  | 鹿屋市     |

【中学生以下の部（小学生以下）・秀作】二十四句

なつやすみえがおまんたんいいうち 池田望愛<sup>のあ</sup> 柳ヶ浦小三年

あさがおはいろんな色でわらってる 池邊海翔<sup>かいと</sup> 野津原小五年（大分市）

鉄ぼうにぶら下がるだけ一年生 梅木琉莉<sup>るり</sup> 大在小六年（大分市）

外に出て猛暑に気づく受験の夏 蛭谷竜也<sup>えびたに</sup> 明星小六年（別府市）

先生がえのころ草とじやれている 太田美結<sup>みゆ</sup> 大在小六年（大分市）

夏休みセミよりうるさい子供たち 岡方恵奈<sup>おかがたえな</sup> 豊川小六年

おみこしでたくさんあびたみずしぶき 岡部由奈 駅館小二年

父が飲むカンビールさえ汗をかく 小幡音寧<sup>ねね</sup> 柳ヶ浦小六年

せみのこえおはかにみずかけずしそう 鹿嶋縫<sup>ぬい</sup> 封戸小二年

たけのこはぐんぐんのびてたけになる 梶原蒼介 八幡小二年

熊の子が夜にかがやく春の空 片岡正臣 豊川小四年

暑い夏汗と涙の特攻機 亀井玲奈<sup>れな</sup> 豊川小五年

オリンピックくぼくも汗かきおうえんだ 公原義翔<sup>こうばるよりと</sup> 豊川小四年

がまんしてめざめたときは春だった 此松宗純 南院内小五年

佐田の春みんなで見上げる桜の木 杉谷依吹<sup>いぶき</sup> 佐田小六年

あさがおがわたしのあたまの上でさく 園田祥子 北馬城小一年

風のくつ走れそうだよ稲の花 千葉あおば 野寺小五年（新座市）

秋風をお供につれて夕暮れは 西原悠世 豊川小五年

にし色の魚をつつた夏休み 林叶翔<sup>かなと</sup> 大在小二年（大分市）

ゆうぐれにしかの鳴きこえすきとおる 飛河雫<sup>ひかわ</sup> 木立小六年（佐伯市）

原爆忌夜空に星が消えてゆく 姫野心泉<sup>こころみ</sup> 大在小六年（大分市）

ぐんぐんとヒマワリのびろあの空へ 松下実朋<sup>みほ</sup> 駅館小四年

笑い声ひびく公園終戦日 宮崎胡翠<sup>こすえ</sup> 大在小六年（大分市）

雲海がきれいに見えた阿蘇の空 米持嘉乃 甘木小五年（朝倉市）

【中学生以下の部（中学生）・秀作】二十四句

満月が家族を照らす帰り道 井上直喜 今津中三年（中津市）

暑すぎて立ち入り禁止滑り台 江島綾音<sup>あやと</sup> 朝日中三年（別府市）

涼風が夏の終りを気づかせた キム優夏<sup>ゆな</sup> 駅川中一年

暑き日に汗と涙の物語 古賀麻央<sup>まお</sup> 大分中三年（大分市）

紫陽花に必死にくつつくかたつむり 佐々木絢菜 駅川中二年

しんとする雨降る前の蝉の声 清水友理 東京女学館中三年（渋谷区）

帰り道コウモリたくさん飛んでいる 鈴木愛加 日出中一年（日出町）

県総体すべてを込める夏の日<sup>たかく</sup>に 高久<sup>まこと</sup> 諒 駅川中三年

セミの歌勉強中の応援歌 高村小夏 朝日中三年（別府市）

炎天下うってうたれた水鉄砲 田島<sup>みこと</sup> 命 駅川中三年

暑い朝日陰で休むおじいちゃん 多田航太 今津中一年（中津市）

向日葵は太陽までの道しるべ 時枝実咲 北部中二年

前歩く夕焼け背負った影を踏む 中西<sup>きり</sup> 煌 駅川中三年

弟と線香花火をしていたら 西<sup>はるか</sup> 晴夏 北部中二年

カブトムシ夜の林を飛び回る 信安颯太 宇佐中二年

雨上がり宝石のよう夏野菜 波多野桃花 駅川中一年

向日葵を燃やす子供は涙目で 堀 貴博 駅川中三年

受験生に駅一つずつ近づきぬ 本多<sup>まこと</sup> 輝 宇佐中三年

ヒグラシや何がそんなに悲しいか 前原春音<sup>はるの</sup> 東中津中三年（中津市）

金木犀香る道へと遠回り 増山実桜<sup>みお</sup> 朝日中三年（別府市）

先輩と並んで走った夏の昼 村上美藍<sup>みらん</sup> 日出中一年（日出町）

水彩で描く青空夏の色 山香美月 宇佐中二年

炎天に乗った自転車磨く夜 吉井咲喜<sup>さき</sup> 佐野中三年（高崎市）

帰省して祖父母と作る夕ご飯 吉田歩美 宇佐中一年

【一般の部・佳作】百四十六句

|                |       |         |                 |        |         |
|----------------|-------|---------|-----------------|--------|---------|
| 鉄棒に下がる子の影原爆忌   | 相川正敏  | 佐世保市    | 啞蝉よ何も叫ばぬ不登校     | 今戸京子   | 宇佐市     |
| 去来墓やはり小さき秋一つ   | 青木篤子  | 直方市     | 教科書の匂ひ酸っぱし暮の秋   | 今林義和   | 宗像市     |
| 夏燕己の影を啄めり      | 安藝達也  | 鳴門市     | 夕風や鬼灯市の灯の揺れる    | 岩崎和男   | 太田市     |
| 初写真自分の知らぬ吾の姿   | 秋山与志子 | 上田市     | 漆黒の大黒柱淑気満つ      | 岩田かよ   | 高松市     |
| 夏の月この人になら話そうと  | 芦田晋作  | 渋谷区     | 人差指蟻の速さに追ひつかぬ   | 岩本文子   | 津久見市    |
| 波音に嬰眠らせて夏座敷    | 麻生 明  | 横浜市     | 山の湯に今年初めの秋あかね   | 上田俊朗   | 小松市     |
| 緋目高やお手玉習ふ女の子   | 有川絹江  | 西海市     | ブラームス流るる牛舎冬に入る  | 請関邦俊   | 飯能市     |
| 時計なき腕の涼しさ野良着干す | 飯田勢津子 | 上毛町(福岡) | 応援の長き笛の音雲の峰     | 独活山強実  | 添田町(福岡) |
| ピオロンや心のひだに立つ野分 | 飯野啓子  | 直方市     | 誰一人降りぬ駅あり横光忌    | 浦城亮祐   | 奈良市     |
| 胡瓜揉む杞憂に終はること多し | 池田すみ子 | 福岡市     | 湯気立てて海辺の子らの寒稽古  | 浦田穂積   | 唐津市     |
| 炎天下校歌を歌う泣きながら  | 池谷勝利  | 浜松市     | 紅残るワイングラスやクリスマス | 大久保なほ子 | 中野区     |
| 蝉時雨生涯かける思いかな   | 石井綺乃  | 松戸市(高校) | 炎天や立つて掻き込む茶漬飯   | 尾形 忍   | 上毛町(福岡) |
| 月代や母の真珠の耳飾り    | 石井彩音  | かすみがうら市 | 薄氷のゆるるびて岸を離れけり  | 尾形聡子   | 上毛町(福岡) |
| 新涼や縁台将棋の千日手    | 石井秀一  | 大田区     | 空蟬や巨木の蔭の石仏      | 小川恵子   | 上毛町(福岡) |
| 水兵で終えた青春終戦忌    | 石川 昇  | 世田谷区    | 悪しき日も良き日もありて髪洗ふ | 小河匂文   | 大府市     |
| 俳画展秋に個展を銀座にて   | 石川正尚  | 江戸川区    | 母苑の文露けしや特攻兵     | 奥野律子   | 宇佐市     |
| 黙禱し打場花火の始まりぬ   | 市川 円  | 宇佐市     | 研ぎ汁の濁り八月十五日     | 押見げげげ  | 和泉市     |

|                  |       |         |                  |       |         |
|------------------|-------|---------|------------------|-------|---------|
| 鴈風呂の薪が一本爆ぜにけり    | 小田隆治  | 上市市     | 母さんを待ちあまる窓や冬の雨   | 古賀由美子 | 唐津市     |
| 開拓史刻む石碑や豊の秋      | 小野澄子  | 上毛町(福岡) | マスクでは隠せぬ想いとラムネ瓶  | 古椎琉花  | 宇佐市(高校) |
| 仏桑花珊瑚に混ざる兵の骨     | 小野千代実 | 大分市     | 死者生者闇ほどかれし盆踊り    | 古寺周一  | 宇佐市     |
| 朝顔を咲かせ老妓の気慰み     | 小野智輔  | 大分市     | 紛争の地に虹見ゆる雨上がり    | 後藤明彦  | 宇佐市     |
| 大勢の中のひとりや星の秋     | 折田祐美子 | 滑川市     | 誘蛾灯不良少年だった頃      | 後藤亮介  | 宇佐市     |
| 霜の朝片足で立つ鷺細し      | 恩田秀子  | 宇佐市     | 夜にしか会えない人や星朧     | 後藤るり子 | 宇佐市     |
| パステルはミューズの指骨秋うらら | 花月大師  | 板橋区     | 天高し風車の上に作業員      | 小林陸人  | 坂井市     |
| 魂の遅れて戻る昼寝覚       | 景山典子  | さぬき市    | サックスの音聴こえさうアマリリス | 小原信之  | 宇佐市     |
| 防空壕今は南瓜の座す所      | 河野二三華 | 宇佐市     | 噴水へわんぱく小僧放ちけり    | 斉藤浩美  | 東海市     |
| 口笛は鳴らず草笛吹き鳴らす    | 河野洋子  | 中津市     | 訃に急ぐ車窓に白き夏の月     | 佐々木里枝 | 宇佐市     |
| 独り居の夕餉短かし冷奴      | 木下テル子 | 上毛町(福岡) | 灯を消せば女人高野に月上る    | 佐野良彦  | 横浜市     |
| めまとひを払ふかくれんぼうの鬼  | 木村隆夫  | さいたま市   | 清流に螢と出会い母思う      | 繁田政春  | 江東区     |
| 暗渠より泥鱈一匹顔を出し     | 木村優芽  | 八尾市     | 遊ぼうよ座敷童が呼ぶ蜻蛉     | 首藤加代  | 大分市     |
| 秋茜山からの風受けて舞う     | 草道久幸  | 摂津市     | 錆びしストープや上りの汽車を待つ | 新濃 健  | 東久留米市   |
| 掻き揚ぐる沼のしたたり蜷舟    | 久信田文夫 | 水戸市     | 自在鉤しづまる山家冷し汁     | 末久正子  | 上毛町(福岡) |
| 筍掘る愚直な父の鰯の技      | 楠本良子  | 西海市     | 独り立つ向日葵の下我も立ち    | 菅尾雅江  | 沼津市     |
| 干柿や小学校に映画来て      | 黒木成剛  | 龍ヶ崎市    | 卒業式スチール椅子の硬さかな   | 鈴木英晴  | 練馬区     |
| 出張の子やポケットのサングラス  | 香西富美子 | 高松市     | 花冷のことに水上警察署      | 涼野海音  | 高松市     |
| 重たげな通学鞆小鳥来る      | 紅紫あやめ | 犬山市     | 教科書とノートの枕昼寝かな    | 須藤進乃助 | 熊本市     |

|                  |       |         |                  |       |          |
|------------------|-------|---------|------------------|-------|----------|
| イニシャルの縫いかけしまま別れ霜 | 須山恵美  | 横須賀市    | 雑囊の背に鳴る小鈴徒遍路     | 霍野廣由  | 上毛町(福岡)  |
| 狗尾草持ちてバス待つ園児かな   | 高田正世  | 西海市     | 友をまだ仏と言へぬ秋彼岸     | 遠見百合子 | 津久見市     |
| 八月の重さを背負い鍬背負い    | 高橋和美  | 豊後高田市   | 母の言ふ寝るは極楽ねこじやらし  | 時枝則子  | 宇佐市      |
| 竹とんぼ放つ蒼空広島忌      | 竹浪誠也  | 鶴田町(青森) | 艦沈む月光の瀬戸老い独り     | 徳永康人  | 橋本市      |
| 父の日のフレンチトーストの厚み  | 田嶋恵子  | 大分市     | もう逢へぬ予感にたたむ白日傘   | 富田湖人  | 津久見市     |
| 夏の川きらきら光る友の顔     | 田中暁也  | 松戸市(高校) | 星冴ゆる鎮魂曲のリフレイン    | 中川和美  | 宇治市      |
| 春風に押されて前へ歩みけり    | 田中英俊  | 宇佐市     | ほうたるを追へば止まりし父母の墓 | 中川靖子  | 東大阪市     |
| 滝行の遍路の杖を守る子や     | 谷本良裕  | 小松島市    | 潮風や古民家続く遍路道      | 中川雄策  | 大磯町(神奈川) |
| 黄昏の天命纏ひ蝉時雨       | 田上智佳士 | 熊本市     | 夕風の海月が揺れる一人旅     | 中崎 滉  | 糸満市      |
| 〔縹雲〕マーブル模様の譜面台   | 田村杏珠  | 川崎市(高校) | 河鹿笛負けじと高き子らの声    | 永野琢也  | 宇佐市      |
| 山小屋のカレーライスや星月夜   | 田村鈴代  | 米子市     | 相槌を打つ幼子や風涼し      | 永野ひとみ | 北九州市     |
| アロハシャツ神に深々一礼す    | 田村直美  | 横浜市     | 風鈴の変はらぬ響き父の影     | 永松市夫  | 宇佐市      |
| 塾内に響き渡るは花火の音     | 挺屋萌衣  | 松戸市(高校) | 地虫鳴く万年橋の要石       | 中村喜久子 | 大分市      |
| 松過ぎて養老院に戻りけり     | 塚本治彦  | 茅ヶ崎市    | 迫り来る空の青さや曼珠沙華    | 中山恵美子 | 上毛町(福岡)  |
| 花火咲く儂い時に祖父悼む     | 辻香名美  | 豊川市     | 今宵又オシロイ花の夜の宴     | 西本日登美 | 上天草市     |
| 若葉して小さく見えし山の寺    | 筒井徳子  | 上毛町(福岡) | ゆらゆらと夏蝶の影奥の院     | 野上 卓  | 世田谷区     |
| 打ち水に横顔見せる黒揚羽     | 角森玲子  | 安来市     | 診察を待つ間じゃんけん咳の子ら  | 野口成人  | 長浜市      |
| 八月や止つたままの掛時計     | 霧田紀子  | 宇佐市     | 白檀の扇子小さくなりて秋     | 土師康生  | 岡山市      |
| 秋涼や般若心経あぐる朝      | 弦田満明  | 宇佐市     | 自習室遠く聞こえるセミの声    | 長谷恋菜  | 松戸市(高校)  |

|                    |       |         |                 |       |         |
|--------------------|-------|---------|-----------------|-------|---------|
| 百人の子等の弁当箱や春        | 畑 利一  | 京都市     | 砂浜におかれし西瓜海光る    | 松下弘子  | 伊佐市     |
| 街の子と呼ばれすかんばん嚙んでみる  | 羽野泰子  | 大分市     | 水切りの石がよく飛ぶ敗戦忌   | 松本公節  | 宇佐市     |
| 秋風の風土記の丘の鎮魂歌       | 馬場美江  | 別府市     | 首巻を忘れるほどの気の迷い   | 松本俊彦  | 京都市     |
| 跡継ぎの忍の一字や稻を刈る      | 葉山高弘  | 八代市     | ゆつくりと老いてゆくかな黒葡萄 | 松本己代子 | 中津市     |
| 洗濯の鉄の折れる炎暑かな       | 伴田 聡  | 北方町(岐阜) | 龍昇るごと左義長の大煙     | 宮野和子  | 上毛町(福岡) |
| 白菊や遺影に語る今日も又       | 樋口通子  | 宇佐市     | 通し土間抜けて子燕戻りけり   | 矢川美枝子 | 大分市     |
| 百歳が句会の要天高し         | 樋田征子  | 宇佐市     | 一日の楽しみ語る蚊帳の中    | 矢川満信  | 大分市     |
| ラムネ鳴る湯上がりの人手に取る宵   | 平野蓮妃  | 北九州市    | 命懸け一鍬入れる炎暑かな    | 薬師寺武信 | 津久見市    |
| 冬銀河少年の日の風呂帰り       | 深町 明  | 朝倉市     | 水音の玲瓏として冬に入る    | 安田功二  | 北区(東京)  |
| 陽炎や地面に描く島の地図       | 藤目ひとみ | 高松市     | かなかなの記憶瑠璃色セピア色  | 安田寛子  | 直方市     |
| 口開けてこぼれんばかり燕の子     | 藤本正吾  | 上毛町(福岡) | 麦の秋掩体壕の残る町      | 矢野安鎮  | 大分市     |
| 風に揺れその名を揺らす姪女苑     | 二村久美子 | 津久見市    | 短夜やグラフで埋めし方眼紙   | 山下奈美  | 静岡市     |
| 初恵比須日が沈むまで子でゐたき    | 穂刈真泉  | 安曇野市    | 関東炊あたたむ宵の口喧嘩    | 山島美紀  | 伊賀市     |
| 口喧嘩しても湯たんぼ入れる妻     | 穂刈 敏  | 札幌市     | 無縁墓に検校の位よ秋の草    | 山本裕之  | 大阪市     |
| 朝市の夏めく周防灘の風        | 堀 卓   | 松戸市     | 張り替へるギターの弦や秋間近  | 吉野佳子  | 八代市     |
| 父のてのひら節だらけ盆供養      | 堀ノ内和夫 | 奈良市     | 闇市に救われ父の敗戦忌     | 米持知子  | 宇佐市     |
| 湯上りの窓に置かれし月涼し      | 本多加代子 | 宇佐市     | 道草をとうに忘れて蟻の列    | 鷺津誠次  | 可児市     |
| 鈴虫が休めばすぐに風呂も湧く     | 本間滋之  | 那須烏山市   |                 |       |         |
| ひとかけの骨、綬、ZIPPO 敗戦忌 | 増永ののか | 北九州市    |                 |       |         |

【中学生以下の部・佳作（小学生）】二十五句

にがうりのはつぱのカーテン青々と 阿部英明 聖下ミニコ学院小五年（仙台）  
 おぼんの日くらい所できもだめし 池田裕亮 西馬城小三年  
 雪とけて春いっぱいの花ばたけ 今永れな 横山小三年  
 買い物のかご重くなる秋うらら 太田 慈 一燈園小四年（大津）  
 桜の木新入生を待っている 辛島光亮 和間小六年  
 いちごあめ夏の思い出友達と 上原夢叶 深見小五年  
 手の中にたねがいっばいねこじやらし 菊池玲志 大在小二年（大分）  
 ああはやいもうしぼむのかツユクサが キム一晏 豊川小五年  
 くりの木はころころおちるそとのみち 木許玲夢 木立小六年（佐伯）  
 ぼんおどりうちわなくした大ピンチ 清末啓介 柳ヶ浦小五年  
 プール掃除滑った後の服絞る 黒川元香 深水小五年（中津）  
 松の木であついとせみが鳴いている 高坂和祈 院内北部小三年  
 れいぞう庫おばけすスイカがいばつてる 古寺愛架 高家小四年  
 春の下校四つ葉見つける六年生 佐藤由奈 天津小六年  
 ナガサキの平和公園炎天下 新開実結 八幡小五年  
 草野球ボールと蜻蛉攪乱し 千秋玲王 長洲小六年  
 なつやすみなにをしようかまようきみ 中村菜花 安心院小五年  
 家のねころうかでねてるすずしそう 比嘉万莉奈 宇佐小五年  
 さくらもち白い皿に咲いたよう 檜本 音 高家小六年  
 あせたくでやつと見つけたカブトムシ 古川朝陽 四日市南小四年  
 なつのくもシロップかけてたべたいな 古川千遥 四日市南小二年  
 ぶらんこに乗った友達飛んでゆく 松本未緒 大在小六年（大分）  
 ふうりんのおとにさそわれ祖母のいえ 山香光央 宇佐小五年  
 夏水みんなで食べる笑い声 山本陸斗 深水小五年（中津）  
 夏がきたせんぷうきに声かける 渡邊篤人 糸口小四年

【中学生以下の部・佳作（中学生）】二十五句

部屋の中サイダー光る夏が来る 池部琴葉 今津中三年（中津）  
 赤トンボ夕暮れ時はまつかつか 井上 羚 朝日中三年（別府）  
 夏休みあしたやろうは馬鹿やろう 岩田義仁 今津中二年（中津）  
 ランニング背中を押す夏の風 小川実紗 今津中三年（中津）  
 戦時中米一つぶも宝物 小野馨太郎 日出中一年（日出）  
 炎天下表茶が体にしみわたる 楫湊太朗 日出中一年（日出）  
 花火見て私の散った夏休み 北 規人 今津中二年（中津）  
 犬威嚇視線の先には青蛙 高砂光希 今津中三年（中津）  
 ホームラン打たれて終わる俺の夏 高橋啓汰 今津中三年（中津）  
 金メダル夢の舞台で走る夏 田嶋舞香 宇佐中二年  
 炎天下意識とぶほどサーブ打つ 但馬隆斗 日出中一年（日出）  
 戦争は人が亡くなり名は残る 田邊志帆 日出中一年（日出）  
 暗い夜花火の光で花火見る 田畑美月 北部中三年  
 炎天下いつもの帰路が地獄道 辻 輝希 今津中三年（中津）  
 寒い冬サンタさんはもう来ない 寺越利生 駅川中二年  
 夏まつりキミへの思い花火に消えゆく 中 星菜 今津中三年（中津）  
 プール行き魚になりきる六時間 長田あかり 今津中三年（中津）  
 セミの歌タクトをおろし夏終わる 長野宗介 朝日中三年（別府）  
 夏祭り大空に咲く笑顔かな 長野佑城 大分中学三年（大分）  
 ふさげない一度開いた心の傷 房崎恵都 日出中一年（日出）  
 お別れだ桜の花が咲くときは 藤石梨央奈 東中津中三年（中津）  
 練習あと疲れた体にかき氷 藤川心優 今津中三年（中津）  
 夏めく日貴方と歩く海の端 宮野愛海 安心院中二年  
 宿題の山におぼれる夏休み 元永秀美 宇佐中一年  
 友と見た夏の夜空に光る花 薬師寺咲羽 日出中一年（日出）

第25回「横光利一俳句大会」表彰式当日句入選作品(令和5年12月9日)

野中亮介・選

【特選】五句

冬ざれや鍋いっばいのうどん出汁

米持知子(宇佐市)

独り身の多し紫式部の実

神田友恵(津久見市)

冬紅葉渡船に通ふ散髪屋

延寿寺富美(北九州市)

晚酌は発熱の子と玉子酒

井上寿子(直方市)

十二月八日正座の膝がしら

岩橋玲子(久留米市)

【秀作】五句

忘れたることを忘るる枇杷の花

押谷 隆(別府市)

声変りせしもせざるも亥の子唄

平田はつみ(杵築市)

チェンバロの和音弾けて冬の星

羽野泰子(大分市)

炭足してしかと聞き置く戦火かな

岩波千代美(大分市)

ちちははの墓に茶の花零れ継ぐ

富尾和恵(別府市)

編集・発行 宇佐市民図書館 令和6(2024)年12月7日

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1

TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679

URL.<http://www.usa-public-library.jp/>

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE